

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 京丹後市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

日本で生活者として定住するために必要な日本生活事情の知識を深め、緊急時に対応できるよう日本で起こりうる災害を想定し、学習する。地域の外国人の多くが生活者として、家族を守るべき立場にある外国人が多く、地域住民全体が、安全で快適な生活を送ることができるよう、日本語教育とともに、災害に備える。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月7日	京丹後市役所 301 会議室	浜田麻里 美藤真士 浜上喜久男 藤村益弘 朝日恵子 (事務局) 麻田友子	①事業申請の経緯、 経過説明 ②事業計画への取組 方法について ③関係機関との連携 について	① 事務局から事業計画・ 申請についての説明。 現在行っている日本語 教室の状況も合わせ て報告。 ② 授業内容の組み立て について。プログラム 検討会の開催等 ③ 行政と連携し、情報収 集を行う。
3月16日	京丹後市役所 205 会議室	浜田麻里 美藤真士 藤村益弘 朝日恵子	①事業報告 ②意見交換	① 事業の成果、課題につ いて報告。 ② 今後の日本語教室の あり方について意見交 換。

【写真】

第1回：出席委員5人



第2回：出席委員4名



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 : 緊急時に対応できる日本語教室
- ② 開催場所 : 峰山地域公民館
- ③ 学習目標 : いろいろな緊急時の場面を想定した日本語教室を開催することにより日本語だけでなく、日本の緊急時の対応システムについても学習し、即座に対応できる実践的な日本語教室を開催する。
- ④ 使用した教材・リソース : 講師自作教材など。京丹後市防災マップ。防災ガイドブック
- ⑤ 受講者の募集方法 : チラシ
各市民局の窓口や公共施設等に配備
協会会員へ郵送
- ⑥ 受講者の総数 27 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
 (出身・国籍別内訳 中国：4人、フィリピン：19人、アメリカ：1人、 タイ：1人、ベトナム：1人、アイルランド：1人)
- ⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	8月31日 14:00~16:00	2時間	8人	中国・中国語(3人) フィリピン・タガログ語(5人)	教授者3人 補助者3人	緊急のときには、まず自分の名前と住所をはっきり言えることが大切だと知ってもらおう。
2	9月3日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語(2人) フィリピン・タガログ語(10人) ベトナム・ベトナム語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者3人 補助者3人	京丹後市や最近の国内の大きな災害の状況について
3	9月6日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語(2人) フィリピン・タガログ語(10人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者3人 補助者3人	住んでいる地域で起こりうる災害について

				アメリカ・英語（１人）		て
4	9月10日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語（２人） フィリピン・タガログ語（10人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	京丹後市で配布されているハザードマップ・防災マップについて
5	9月13日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語（２人） フィリピン・タガログ語（10人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	居住地区の避難場所・避難方法の確認
6	9月17日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語（２人） フィリピン・タガログ語（10人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	居住地区の避難訓練に参加することの意義を知る。
7	9月22日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語（２人） フィリピン・タガログ語（10人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	災害時の日本語の確認
8	9月27日 14:00~16:00	2時間	14人	中国・中国語（２人） フィリピン・タガログ語（10人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	【地震】地震について理解する
9	10月1日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語（３人） フィリピン・タガログ語（8人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	【地震】地震が起きたときの行動
10	10月4日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語（３人） フィリピン・タガログ語（8人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	【地震】家族・近隣住民との協力の必要性
11	10月8日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語（３人） フィリピン・タガログ語（8人） ベトナム・ベトナム語（1人） アメリカ・英語（１人）	教授者3人 補助者3人	【地震】公共の防災に関するアナウンスを聞く
12	10月12日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語（３人） フィリピン・タガログ語（8人）	教授者3人 補助者3人	【地震】地震に備えて準備し

				ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)		ておくこと
13	10月15日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【地震】持って逃げるものと、いつも準備しておくもの
14	10月18日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【台風など】台風・洪水について
15	10月22日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【台風など】天気予報・台風状況に留意し理解する
16	10月25日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【台風など】情報を理解する
17	10月29日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【台風など】避難行動について
18	11月1日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【火災】火災報知機・探知機について理解する
19	11月5日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【火災】自宅で火災にあったとき・外で火災にあったとき
20	11月8日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【火災】家庭での出火予防の備え
21	11月12日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人)	教授者3人 補助者3人	【火災】緊急避難や消火の対

				ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)		応
22	11月15日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【火災】通報する
23	11月19日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【火災】のときの日本語まとめ
24	11月26日 14:00~16:00	2時間	13人	中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (8人) ベトナム・ベトナム語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【交通事故】自分が事故を起こしたときの行動
25	12月6日 14:00~16:00	2時間	8人	中国・中国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (5人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【交通事故】現場に居合わせた場合の行動
26	12月10日 14:00~16:00	2時間	8人	中国・中国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (5人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【交通事故】のときの日本語
27	2月10日 14:00~16:00	2時間	6人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人) タイ・タイ語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【その他】いつも準備しておく連絡先について
28	2月15日 14:00~16:00	2時間	6人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人) タイ・タイ語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【その他】日常生活の中での緊急時の行動と対策
29	2月18日 14:00~16:00	2時間	6人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人) タイ・タイ語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者3人 補助者3人	【その他】身近にある危険を知らせる看板について
30	2月20日 14:00~16:00	2時間	12	中国・中国語 (4人) フィリピン・タガログ語 (4人)	教授者3人 補助者3人	まとめ

				タイ・タイ語（1人） アメリカ・英語（2人） アイルランド・英語（1人）		
--	--	--	--	--	--	--

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

【第5回】

京丹後市で配布されているハザードマップ・防災マップを使い、学習者の家と避難所の場所の確認と、避難する際のルートの確認も行った。学習者の中には、市から以前に配布されていたハザードマップ、防災マップの存在を知らない人もいた。

また、建物の避難所となる建物の位置は知っていても、名称を知らなかったというケースもあった。



【第11回】

地震やその他の災害の際に、京丹後市が放送する行政防災無線の放送マニュアルを使い、実際に市の行政防災無線での放送のテープを聞きながら、どの言葉が出たら危険な状況についての放送かなど、言葉のキーワードにポイントを置きながら、学習した。

同じ「避難」という言葉が出てきても、付属する言葉「指示」「勧告」によって取るべき行動が違うことを学習した。



【第30回】

まとめとして、消防本部から水消火器を借り、消火体験をおこなった。消火器の使い方の手順を知ることによって、出火時に慌てずに対応できるようにと、学習者は1つ1つの手順を確認しながら行った。



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

防災関係の情報収集を行い、すぐに役立つ地域の災害、防災情報を使った学習を行うことができた。

② 学習者の習得状況

学習したことを家庭で、家族と情報を共有したという学習者が多くいた。家族全体で、緊急時に備える心構えが定着した。また、地域の防災訓練にも参加したという学習者もいた。日本語を学習することで、自分や家族の身を守ることが出来ると気付かれた学習者も多かった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

成果は日本に住んでいれば、留意しなければならない災害について認識ができたことや学習者の災害に対する認識と対応力の向上が図れた。

また、学習者が災害の時には同じ地域に住む住民の一員という自覚を持って、協力することが大切であることを認識するとともに、そのためのコミュニケーションに必要な日本語を勉強することの大切さを感じた。

課題は、学習者のレベルが多様で学習内容の理解が十分でないことが懸念されること。講師と補助者6人で対応したことで、全体指導のあとは、少人数に分かれて指導にあたったが、同じ内容を何回も繰り返して行うことが大切であると感じた。また、日頃から地域の人たちの関わりを持っておくと、緊急時にスムーズに協力体制が取れると思う。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

授業プログラムを検討する際に、講師は市防災担当から災害や防災の基礎知識を得た。また、市防災担当には、災害時に外国人が「災害弱者」となる状況を知ってもらえ、学習で使う、過去の市内の災害の写真や資料の提供をうけた。

現在、市の防災体制の中では外国人に対する支援は特に検討されておらず、今後の行政課題としての認識を持ってもらえることができた。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

学習者の多くが日本人と結婚した外国人。学習者の男女比率も圧倒的に女性が多く、学習目的もほぼ共通している。日本在住が比較的浅い人は早く日本の生活に馴染むために、コミュニケーション力の向上や基本的な日常生活の中での日本語が学習の中心。日本在住が比較的長い人で仕事を持っている人は、日本語能力試験に向けた学習を希望されることが多い。また、子育て中の人は、学習意欲があっても家族の協力がないと教室に通えないというケースがある。

学習者の多様なニーズに対応するため、講師同士の情報交換や連携が重要となっている。

b. 今後の課題

現在、コーディネート能力を有する日本語教師有資格者がいない状況の中、授業のカリキュラムや使用教材などを、講師が試行錯誤を繰り返しながら、行っている。多様化するニーズに応え、スムーズな教室運営を行うために、専門知識を持つコーディネーターが必要となり、教室のプログラムを立てることができれば、各講師が共通した指導方法が取れる。

外国人に対しては、このような講座を必要としている人へ、広報の手段が適切か検証する。

c. 今後の活動予定, 展望

日本語教室の充実を図るため、講師のスキルアップ研修などや情報交換の場を設ける。また、日本語教室が、日本語能力を修得できる場としてだけでなく、学習者と地域を繋ぐ場としての役割を果たせるよう、交流会などを定期的に行う予定。